

令和6年3月28日

芦屋市企画部市民参画課
課長 小川 智瑞子 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

Just! do it 「応援します。あなたの活動を夢から実現へ」 報告書

- 1 日 時：通年
- 2 支援団体：ととのうラボ Ashiya CG・J 浅野俊昭 心の救急車 絵本道
TAKAHASHI coffee
- 3 担 当：橋野 株本
- 4 事業詳細
 - (1) 目 的：活動を始めた方、始めたけど前へ進めない方、共感性が高い活動になるための支援をし、活動者を育成する。
 - (2) 内 容：支援場所の提供、企画・運営の助言などを総合的にアドバイスしながら活動を支援する。

ととのうラボ Ashiya：「のんびりランチパーティー」参加者115人

Just! do it で活動し続けて、私たちが何をしていきたいのか、誰と協働していくといいのか、考えられるようになりました

良かった点

- ・一年間継続して活動することができた。
- ・毎月、温かいごはんを食べてもらえる居場所づくりができた。
- ・継続して活動することでととのうラボ Ashiya という団体がリードあしやで何かやっているらしい、という認知が広がり、口コミで新しい参加者が増えた。
- ・リードあしやの環境で多様な活動ができた。
- ・オープンスペースでのワークショップや打ち合わせ、会議室でのヨガ、印刷機を使ったチラシづくりなど、活動の拠点としてワンストップで利用させていただくことができた。
- ・私たちの活動を理解していただいているスタッフの皆様がいること。
- ・相談できる方がたくさんいらっしゃるので、NPO 法人化という次のステップが見えてきた。
- ・具体的にどう動いていくか方向づけがしやすい。

改善点

- ・欲を言えば何年間か施設使用料をサポートしてもらえると大変ありがたい（とはいえ、他の助成金情報等もあるので、そこは活動主体が視野を広くも

っていたらいいのだと思う)

- ・資金面ではふるさと納税的なもので NPO を支援してもらえる流れを芦屋市でつくることはできないか？
- ・リードあしやのような市民活動ができる施設をもっと増やしてほしい（これは市に対しての要望ではある）

浅野俊昭さん：「つながり」を深めるための聴き方講座」(4回連続講座)

「こころのやすらぐおはなしルーム」 参加者 39 人

Just! Do it で応援いただいたことにより、信頼のおける個人・団体として市民の方々に認知いただけた。

成果

- ・講座とおはなしルームを始めることができたこと。
- ・講座の受講を終え、話を聴くことについて学んだ 8 名の市民の方々が生まれたこと。
- ・おはなしルームを利用した人の動機を話の中から確認したところ、当初仮定していた、相談には行かないけれども、誰かに話はしたいというニーズがあることを確認できたこと。
- ・活動する仲間ができたこと。

良かった点

- ・市民の皆さんに活動していることを数多く認知いただけたこと。
- ・活動を始めるにあたって、資金がない中、経費の面で支援いただけたことは、とても助かりました。
- ・いつでも相談に乗っていただけたことは、活動を進めていくうえで、とてもありがたかったです。

改善点

- ・実際の活動を進めていったため、まちづくりとしての活動の趣旨を市民の皆さんにお伝えする機会が少なかったこと。

心の救急車：「対談会 心のピンチを救うために」 参加者 31 人

良かった点としては

- ・かわいいチラシを作ってくださったこと
- ・事業を進めるための不安なども含めてご相談に乗ってくださったこと

改善点としては

- ・私のイベント参加者が私の個人的な知り合いばかりのため、あまり芦屋市民を巻き込めていないこと

- ・グランプリになった際に少額でも賞金がもらえたらそれを資金に無償で活動等を展開できるが、それがない状態での初動はなかなか財政的に難しいと感じたこと

絵本道®：「大人の絵本講座」参加者54人

良かった点

- ・応援いただいた事で、先々まで会場確保について心配なく運用できたことが大変ありがたかったです
- ・講座の周知に最も苦慮する点ですが、今回ポスターの制作や掲示、web、広報などの告知支援が大変助かりました。今年に入ってから「掲示を見て」「広報を見て」とお二人参加が増えました
- ・絵本は10冊近くなると大変重量があり、そのほかの画材など含めると運搬が困難でした。今回ロッカーが使えたことは非常にありがたく、これまでの苦労がかなり軽減されました。参加者に見せる絵本も、重さを気にせず持参できたことも講座の品質アップにつながりました。

改善点

- ・6回コースの設定なので、終了に近づくと今後どうするのか、次の展開について、少なくとも3回目くらいで一度中間相談できればよかったなと思っています。

実践してみても

- ・上記の改善点にも通じるのですが、講座を実施してみて、参加者はゆるく継続して今後も続けていきたいようです。
- ・3回目か4回目あたりで、今後の方針などを告知してイベントを絡めたりしながら次の展開にもっていく計画を立てるとよかったなと思います。
- ・特に絵本をつくるコースは、途中で参加されたい方が複数あり、補講して一人は加わりましたが、終盤からの方は参加できませんでした。今後もコースが継続するとなると、次のコースをおすすめできると思いました。

CG・J：グループの会議等に会議室を提供した。

TAKAHASHI coffee：みんなのつどい場インターナショナルデーで出店

5 振り返り

- ・6年度は市民活動フェスタ出場者で、特に共感性の高いグループを支援した。どの個人・団体もステップアップを目指して威力的に活動したように思える。
- ・個人で始めた方は、運営母体を支えてくれるスタッフができたようで、芦屋市民活動センター登録団体を視野に入れようとしている。
- ・この事業を知り、令和7年度の支援希望者も出てきている。

1. 事業が目指すところ

「活動人口 100%のまち」を目指した市民活動や C B (コミュニティ・ビジネス) を推進します。地域課題解決に繋がる市民活動や C B を希望している個人・団体の、最初の一步を応援し、不安を解消、プランを実現化する仕組みをつくるには、中間支援事業としてトータルサポートが望ましいと考え、実践的支援プログラム「Just! do it」事業を中間支援事業で行う。

2. 活動・支援の内容



心の救急車 / 増田温子

24 時間対応できる「心の救急車」で、希死念慮の高まった人々を対象にしたセーフティネットの仕組みを作りたい。



絵本道 / 更家直子

絵本を活用した場づくりや大人の居場所づくりの大切さを伝え、これまでの集大成として「絵本の場づくり」を提案したい。



「つながり」を深めるための傾聴講座・おはなしルーム / 浅野俊昭

心理カウンセラーの経験を活かし、戸屋の人たちが心を開いて話せる環境を整えたい。



TAKAHASHI Coffee / 高橋英徳

「不良豆」を手作業で取り除く「ハンドピック」で、就労支援とブランド化を実現するビジネスプランを提案したい。



ととのうラボ Ashiya / 松井ゆかり 金子ふみえ

ワンオペ育児の経験からママの居場所「産前産後のママのためののんびりランチパーティ」を月 1 回開催。



CG・J / 高校生の環境グループ

「美しい」を維持できる街づくり小学校から始めた活動を高校 1 年生の現在まで同級生 20 名ほどで、戸屋市内の清掃活動に動いている。

3. 活動内容 中間支援業務における活動支援（相談、会場提供、チラシ作成、広報支援）

1. 相談業務：地域課題解決につながる市民活動や C B に関する相談が増加傾向である。
2. 情報提供：ためまっふ戸屋、月 1 回発信するニュースレター等で、団体の活動紹介及びイベントなどを随時発信、また、情報発信のためのチラシ作成指導を行う。
3. 人材育成：C B セミナール、SNS 講座など、運営企画から広報までの支援講座を実施し、活動を広げる場として、C B プレゼンテーション大会へのエントリーを促す。
4. ネットワーク：団体間で互いに補える何かを探り考え出すために、交流会をメインにするだけでなく、セミナーやイベントの流れで交流の場を常に展開している。
5. 事務指導：会則、事業計画・予算書、助成金申請書の作成指導等事務手続きが一貫してできるようになったことで、活動に深みが出てきている。

4. 今後の展望

相談から学びの場へアシストし、自分事としての活動が見えてきていると感じている。ここから、さらに団体のネットワークが構築し、それぞれの強み弱みを補い合うプロジェクトが生まれることを期待できる。